

来賓挨拶

兵庫県知事 井戸敏三殿

皆様、こんにちは。

日本鉄リサイクル工業会の第44回通常総会・第31回全国大会が、ここ神戸で開催されております。心から歓迎いたしますとともに、盛会をお慶び申し上げます。

製鉄する際には、鉄スクラップが必要です。そのスクラップはアメリカから相当な量を輸入しており、これがないと製鉄ができないと子どもの頃に社会科で習いました。しかし、日本は90年代初めに輸入量よりも輸出量が増え、鉄スクラップは輸出が当たり前になったとお聞きしました。

リサイクルに適したスクラップは問題ありませんが、先ほど伊藤会長も触れておられたように、雑品スクラップは始末が悪いため、中国などが輸入を禁止しております。このことは廃プラの問題とよく似ています。プラスチックが海洋汚染の原因となっていることが中国や東南アジアで問題となり、リサイクルに適さない、汚れが目立つ廃プラスチックが輸入禁止となりました。そのため、廃プラスチックも雑品スクラップも日本国内できちんと処理せざるを得ない状況に陥っているのだらうと思います。

本県では、鉄は99%リサイクルされております。これは、業界の皆様方のご尽力の成果でございます。しかし、廃プラはそこまで到達しておりません。まだレジ袋を頻繁に使用している実情があります。これからの環境上の課題は、これまで以上にリサイクルが求められるというところにあります。

昨年7月初旬に豪雨が発生し、岡山県、広島県、愛媛県等で大きな洪水が起きました。その復旧復興をスタートするために問題となったのが災害廃棄物の処理です。災害廃棄物の処理が終わらないと次なる段階に進めない。そのため、ボランティアの方々のご協力もあり、かなり迅速な処理が行われました。

来年1月17日で阪神・淡路大震災の発生から25年を迎えます。あの災害瓦礫をとりあえず仮置き場に一時保管しましたが、その分別処理には10年という大変長い期間がかかりました。そのことを考えると、リサイクルしやすい製品、リサイクルを考えた製品をいかに生み出して消費者に提供していくのが非常に重要な観点であると考えております。

本県では、この2月に環境基本計画の5回目の改定をいたしました。環境を優先する社会こそが地域を先導していくという副題を付けさせていただきました。基本理念として“低炭素、自然共生、資源循環、安全・快適、地域力”の5つを掲げています。なかでも、“資源循環”が重要になると考えており、日本鉄リサイクル工業会の皆様方のご尽力に大いに期待させていただきたいと思っております。

私は、いつもこうした挨拶の際には歌を詠ませていただいております。

“日本の生活支える 鉄材のリサイクル担うは 工業会”

工業会の皆様が鉄のリサイクルにしっかりと取り組んでいただいたうえで、他のリサイクル分野にも指導的立場で臨んでいただければありがたいと思っております。

日本鉄リサイクル工業会のますますのご発展を祈念いたしまして、私の歓迎と期待の挨拶とさせていただきます。